

横浜国際プールに係るサウンディング調査（「対話」） 実施結果

1 経過

令和4年9月14日(水)	対話実施の公表
9月15日(木)から10月7日(金)まで	対話実施事業者募集
9月27日(火)	現地見学会・事前説明会
10月11日(火)から10月31日(月)まで	対話の実施

2 対話参加者数

2者

3 主な対話の内容

将来ニーズを踏まえた施設内容、施設の魅力向上に向けた運営方法、施設の効率的な維持管理に関する提案、これらを受けた改修提案、想定している事業手法、収支計画 等

4 提案内容

項目	【A社】	【B社】
方向性	<ul style="list-style-type: none"> 床転換なしの通年スポーツフロアとする 	<ul style="list-style-type: none"> 床転換を継続
施設改修	<ul style="list-style-type: none"> メインプールを廃止し、スポーツフロア化 スポーツフロア化に伴う空調改修 スポーツフロアについて、プロスポーツのレギュレーションに対応した施設改修 等 	<ul style="list-style-type: none"> プールでの国際大会や国内主要大会の誘致のため、現行設備（照明設備、競技用備品、計測機器、電光掲示板等）の更新が必要 プール運用の幅を広げるためのメインプールの横幅を短水路仕様に変更 等
事業方式	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者のノウハウや技術を活用できるPFI事業のRO方式が最適 より市民に活用される施設とするために一定程度の市負担額は必要 	<ul style="list-style-type: none"> 従来方式（公共発注、指定管理）、PFI方式どちらでも可能 施設整備費（改修費）については、従来方式・PFI方式どちらにおいても横浜市の負担が必要
スケジュール	<p>改修期間：約24ヵ月 （現段階の検討によるもの）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年までに実施予定の特定天井改修工事とメインプールの改修を同時期に行うことで工期短縮を図り、営業休止期間を最小限にすることを提案 	<p>改修期間：提案なし</p>
管理運営サービス	<ul style="list-style-type: none"> 通年のスポーツフロアとするための設備改修は必要だが、床転換費用や床材修繕費の削減、メインプール廃止による光熱水費の削減など、トータルで維持管理費用の削減が可能 床転換時に発生する休館期間における収入の増加が見込まれる あらゆるプロスポーツのレギュレーションに対応させることにより、様々なプロスポーツの試合が開催可能 	<ul style="list-style-type: none"> 床転換費用の削減については継続して模索 営業時間の見直しや施設利用料の増額は収益性を高める上で必要 受付機能の集約、キャッシュレス化による人件費削減

本市施策への
反映・地域貢献

- ・「横浜市中期計画2022～2025（素案）」や「第3期横浜市スポーツ推進計画」にある賑わいづくりに向け、北部地域におけるスポーツによる地域活性化が可能な施設となりえる
- ・学校部活動の地域移行への貢献
- ・市内建設会社のJV参画による、維持管理、運営の一部についての市内中小企業の活用が可能
- ・様々なプロスポーツの試合開催により地域の賑わいを創出することが可能
- ・広大なスペースを有効活用することで、大規模な体験型屋内スポーツイベントなどを実施
- ・近隣小中学校の児童・生徒を対象としたSDGs啓発事業の実施

- ・スポーツ振興事業全般（スポーツ実施率向上、子どもの体力向上など）
- ・健康増進事業全般（健康寿命延伸、メタボ予防、フレイル予防、介護予防など）
- ・市内中学校や高校の部活動を横浜国際プールで実施
- ・市内小学校の水泳授業を横浜国際プールで実施
- ・清掃や点検業務の地元企業の活用、また、運営においても地元企業や団体と連携した施設におけるイベント開催での連携等が可能
- ・地元雇用の推進
- ・地域住民向けに着衣水泳体験会などの開催。
- ・市内プロスポーツチーム（横浜スポーツパートナーズ）と協働 等